
松本市総合計画策定に係る 松本市基本構想2030市民会議 第2回の意見整理

1. 都市計画	p2
2. 経済振興	p6
3. 教育厚生	p9
4. 3部会の取りまとめ	p13
5. 共通するキーワードの抽出	p14

2020年9月

1. 都市計画

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
自然環境	<p>●暮らしの中に溶け込んだアルプスの風景</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝のすがすがしさの中の北アルプスがきれい。凜とした空気感 朝、農作業をしているときの北アルプスの美しさ 山がきれいに見える。移住して10年経つが未だに感動し、幸せを感じる。町から山が見える景色は感動する まちなかや、身近なところに自然がある <p>●暮らしやすい気候</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本は晴天率が高く、雪や雨も少ない。この強みを健康づくり、太陽光発電などエネルギーに活用すべき。 <p>●水資源を中心に自然資源が豊富</p> <ul style="list-style-type: none"> 水資源が豊富。きれいな水 人間は水を見ているときポジティブな感情になる 一部集落では水が自給できる。電気も自給できる 森林資源などバイオマスも豊富 <p>●魅力的・さわやかな朝</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本の朝はすがすがしく、さわやか。鳥のさえずりも聞こえる。「朝」を資源として捉えるべき 松本の朝にはポテンシャルがある <p>●松本は訪れたい魅力が多いまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本は高水準のリゾート都市になり得るポテンシャルがある。人の物語性も含めて、松本の特徴、良さを突き詰めるとそこに共感する人が来るようになる 冬は北アルプスが一番きれいな時期。凜とした空気感がある 	<p>●市民が自然環境に価値を感じていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の人がアルプスに対し価値を感じてない <p>●自然環境や緑をないがしろにしている</p> <ul style="list-style-type: none"> 産廃処理場などを自然豊かな郊外に設置するなど、地元の人には、松本にとっての本当に大事な自然環境、緑をないがしろにしている。自然豊かな場所に産廃処理場などがあると松本のイメージを悪く感じる 自然の恵みにフリーライドしている <p>●産業廃棄物処理場への市民意識を変える</p> <ul style="list-style-type: none"> 臭いものに蓋をするのはよくない。産廃はそもそも私たちの暮らしから排出されているものであり、市民は商品がどのように作られ、処分されるか知るべき <p>●森林資源がまちづくりに活用されていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 松枯れなどが起きている 豊富にある森林資源をまちづくりに活かし切れていない <p>●市街地の緑を維持できていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地において緑を維持するのが大変であるため（水やりや落ち葉の処理など）コンクリート化が進んでしまう 緑があることと同時に土がある空間が重要。大地の気圧が抜ける大地の呼吸の場として土中環境を意識した緑化が大切 <p>●足下を見るとまちなかにはゴミが落ちている</p> <ul style="list-style-type: none"> 水路にペットボトルが流れてくる。たばこの吸い殻が捨ててある。足下のモラルの低さを感じる。改善が必要である。 <p>●日本一きれいな街にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 景色景観だけではなく市民全員がきれいな街作りを真剣に目指す。小さな行動×市民数で可能性を模索する機会が必要 <p>●朝の魅力を活かし切れていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝から営業している店がない 市民が松本の朝が素晴らしいことに気がついていない（他の地域と松本の朝は違う） 	<p style="text-align: center;">重要キーワード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自然環境】 市民が自然の恵み・恩恵に敬意を表するとともに、まちづくりに活用していく</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本の強みである自然に対する敬意と保全 森林資源のまちづくりへの活用 自然資源の循環を踏まえた都市計画 </div> <p>●市民が自然の恵み・恩恵を実感し、大切に ●松本周辺の自然の恩恵を実感し、保全と活用を考える ●きれいなまちづくりに向けた市民行動の促進</p> <p>●自然の恵みを生かした経済活動の創出（エネルギーなどの自給自足など）</p> <ul style="list-style-type: none"> メガソーラー、バイオマス、小水力発電の取組み 晴天率の高さを活かした健康づくり 湧水など水のセラピー <p>●森林資源を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林資源の市街地での活用 市街地の緑化、土がある空間づくり <p>●朝や冬の魅力を活かした観光・商業振興</p>

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
都市環境	<p>◎中心市街地</p> <p>●まちがお城を中心にコンパクトにまとまっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかは歩ける範囲に文化施設や飲食店など、質の高いモノが集積している ・お城と駅との距離がほどよく、回遊できる町である。お城が町の中に溶け込んでいる。ヨーロッパの旧市街・新市街と同じ趣きがある ・電線が地中化している通りはまちがきれいである <p>●水路は松本の特徴であり資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本は湧水が豊富。湧水は地域の宝。きれいな湧水が未来永劫、湧き続けるために地下の環境を踏まえたインフラのあり方の検討が必要 <p>●自然豊かな中で都市生活がおくれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然があり、環境がよく、その上で都市生活もできることが松本の強み ・市街地のそばに浅間温泉があり、そのすぐそばに森林がある。森の香りがする ・文化的なもの、都市的要素がある中で暮らしていける。そこから自転車でも10分も移動すれば自然の中に帰れる。自然との距離感がよい <p>◎郊外</p> <p>●市街地と郊外とで大きな違いがある</p>	<p>◎中心市街地</p> <p>●松本城は松本市民の心のよりどころだったが、それが薄れつつある（新しいよりどころが必要）</p> <p>●松本独自の都市景観が悪化している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前にもマンションが増え、景観が悪化している <p>●まちなかで休める場所や緑が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を歩いて回遊する際に休める場所がない ・中心市街地で自然を感じられない ・市民、観光客共に集える中心市街地構想が必要 <p>●空き家が増加、専門店も減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地、郊外ともに空き家が増加傾向 ・小さな専門店・商店が減ってきている ・歩いて買い物に行ける店がなくなる ・空き家、小さな商店がなくなると「更地」になり、コインパーキングとなる。まちの歴史・文化の積層が破壊される（松本の街並みが画一的な町並みになってしまう） <p>●お堀の水質浄化に向けた根本的解決が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お堀の水質浄化は、しゅんせつをするだけでは根本的な解決にならない。コンクリ・アスファルトで固められた大地は、地下の環境が酸欠を起し浄化能力を落とす <p>●市街化調整区域など都市計画の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域は本来優良農地を守るためであるが、今では農地を引き継いだ者以外が家を建てられず、高齢化率が著しく高くなり、農業の担い手が減少している。現状にあった都市計画への見直しが必要 <p>●100年後評価される街並みづくり、ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在はきれいな街並みが市街地には存在しているが、果たして100年後に評価される街であるのか。若者の起業を支援するためにも、松本城や開智学校がある街に相応しいハード面での整備が重要 <p>◎郊外</p> <p>●宅地開発が進み、農地が減っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近岡田の田んぼがなくなって宅地が増えている。市街化調整区域の開発がちぐはぐしている。 <p>●中心市街地と郊外のサービス格差</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郊外では車がないと不便で暮らせない。郊外居住者は「おいていかれている」と感じているかもしれない 	<p>重要キーワード</p> <p>【都市環境】 松本の文化・歴史の積層を活かしたまちの再生</p> <p>●松本らしい都市像の設定とそれに即した地域経済の構築</p> <p>●松本らしい個性・歴史を活かした中心市街地の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本の個性、歴史を感じられる街並み、路地の保全 ・市街地における自然環境の確保（飲食店の前で野菜を作って食べられるなど、自然を感じられるとよい） ・目的/ターゲットを明確に定めた空き家活用 ・地下水の保全に向けたインフラの整備 ・松本城や開智学校がある街に相応しいハード整備 <p>●各地域の個性を活かしたゾーニングおよび都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の特徴の整理と役割設定

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
交通インフラ	<p>◎道路環境</p> <p>●歴史や文化を感じられる狭い路地がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 道が狭いことは、松本が城下町だから。まちの個性として楽しむことも必要 車が通らない細い道は、自転車で移動するのが楽しい 道が狭いのは松本の特徴として捉えまちづくりをしていくべき 	<p>●自動車中心の都市設計。道が狭く交通マナーが悪い</p> <ul style="list-style-type: none"> 車中心の都市設計 車の通りは多いが、車道が狭い。一方通行が多い。さらに運転マナーが悪い 143号線は子どもが歩くのは危険である。女鳥羽川にかかる橋も事故も多い 商店街で車をシャットダウンすると人が戻ってくるという実例は多い 中心市街地は自動車がなくても生活できるが、郊外は自動車がないと生活できない <p>●自転車でくらしやすいまちになっていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車生活しやすい都市設計ではない。移動しづらい。車との距離感が怖い。また、自転車のマナーも悪い <p>●公共交通のサービス水準、担い手の議論が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通は充実していた方がいいのは当たり前である。どの部分をどのように充実を図るのか議論が必要である 公共交通は公共インフラであり、これからの時代、事業者だけに頼るものではない 	<p>重要キーワード</p> <p>【交通インフラ】 車社会からの転換（徒歩や自転車でまちを感じる暮らしへの転換）</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地を歩行者、自転車で生活できるまちに 公共交通網のあり方の検討（特に郊外部） <p>●歩行者や自転車優先のまちづくりへの転換</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車や徒歩で移動しやすいまちづくり 中心市街地における歩行空間の確保（自動車の乗り入れ禁止） 自動車、自転車の運転マナーの改善 <p>●まちづくりにおける公共交通の役割の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動権に対する議論の促進 郊外部の公共交通網やサービス水準の検討 公共交通の担い手の検討
自治・町会・コミュニティ／防災・減災	<p>●コミュニティが強い。レベルが高い</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館のサークル活動が100近くある。 公民館等での生涯学習活動が盛ん ボランティア活動なども盛ん（松本山雅、OMFなど） <p>●新しい地域防災の芽が育っている</p> <ul style="list-style-type: none"> 少年消防クラブが生まれ、活動が育ちつつある 	<p>●コミュニティの弱体化が進んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口が減少し、町会の役員のみなり手が減っている。 町会活動の担い手が少なく、一部の人に負担がかかっている 町会はこれからも必要とされる組織だが、時代変化に対応できていない。住民が安心して暮らし続けていけるよう、町会は環境変化に対応していく必要がある <p>●地域防災が弱体化している</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防団のみなり手が少ない コミュニティの弱体化とともに、災害時の近所での助け合いができにくくなっている <p>●町会に入らない世帯の防災対策ができていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内会に入らない住民（学生・マンション・寮なども含め）と被災時に協力できる体制がない。 被災時の基本ルールを地域で議論する必要がある。 	<p>重要キーワード</p> <p>【自治・町会・コミュニティ／防災・減災】 力強く残っている松本のコミュニティ力の、これからの時代に合わせた再生・強化</p> <p>●コミュニティの再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 人のつながりの強さを活かした、見守りや互助活動の推進 中学生など若い世代に対する自治会活動への参加の促進 <p>●コミュニティ活動と地域防災との融合</p> <ul style="list-style-type: none"> 市域が広い松本に対応できる、地域の状況に即した、防災・減災体制の構築 町会の防災に向けた体制づくり 町会防災部長を消防局OBや消防団OB（班長以上経験者）から選出 10年後を見据えて分団員等を育成 町内会に入らない世帯（学生・マンション・寮なども含め）の住民と被災時に協力できる体制の構築・普及 被災時の基本ルールを隣近所（組などの組織）住民全員で理解し合い、被災時等に一人も取りこぼしの無いようお互い助け合える関係（ルールの徹底）を平常時に構築

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
教育／市民の気質	<p>●教育が様々な分野の下支えであり、都市間競争力の源泉になっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本には、しっかりとした教育を受けてきた人が多い。松本を支えていたのはそういった人材 勉強が出来る以前にこの町の歴史文化がある。それを教えるカリキュラムがあってもよい <p>●教育資源が豊富にある</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学、短大、高等学校など豊富な教育資源がある <p>●共通の目的があると団結する</p> <ul style="list-style-type: none"> 山雅のボランティア数が全国屈指。ボランティアに対しても前向き。何かきっかけであったり、投げかけるものがあると、動き出すポテンシャルがある。松本の何かに関わりたいという何かがある。活動したい人や活躍したい人がいる 共通の目標を設定すると強くなる。役割を与え自分事化した時に強みが出る 	<p>●学校教育環境が移住のボトルネックになっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本への移住を考える時、子どもの教育環境が問題になるケースがある 教育機会が東京に比べ圧倒的に少ない。クラス以外の教育環境が足りない。先生以外から得る教育環境がない 	<p>重要キーワード</p> <p>【教育／市民の気質】 松本の将来を担う子どもを育て、大人もアップデートできるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教育」を都市戦略の中に位置づける 常に学び続けられる。年代に関わらず、学び、挑戦でき、多様な人々が活躍できる <p>●東京など都市部とは違う「学び」があるまちとして、松本が目指す「教育」を明確にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 初等・中等教育の中で東京等と同等を求めるとはせず、松本で学べる教育を実現させる <p>●どの世代でも学び、知識、スキルをアップデートできるまちを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもも大人も自律的に学び続ける能力を身につけられる環境を構築する
その他松本の特徴	<p>●創造性の高いクリエイティブ産業が生まれやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本はクリエイティブ産業がマッチする。モノではなく、創造性の高い、クリエイティブ産業を伸ばしていけるポテンシャルがある 信大、松大などと連携をしてマツモトクリエイティブユニバーシティ創設ができるとよい 		<p>重要キーワード</p> <p>【その他松本の特徴】 松本の文化を活かし、育むクリエイティブ産業の創出</p> <p>●新旧を融合させるクリエイティブ産業に対する支援</p> <p>●挑戦者、プロフェッショナルに対する支援</p>

2. 経済振興

経済環境の変化、経済の基盤となる松本市の社会・文化環境	状況の変化／魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
	<p>◎ビジネススキームの転換</p> <p>●自然の保全と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsは大きなテーマであり、単に自然を守るだけでなく、あらゆる産業で活用していく必要がある。うまくAIでも絡めて進めていけば良い <p>●量から質への転換</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで量でビジネスしていた。人口が減少するなか、質のビジネスへ転換していく必要がある <p>●消費者意識の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会に対するニーズが高まっている傾向にある。環境問題にも目を向けられるようになっていく 大量消費の社会から質を重視する転換の良い機会 <p>◎デジタル化の急進</p> <p>●デジタルシフトにより、地方にいても仕事ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルシフトにより都会との距離が縮まった。地方にいても仕事しやすい環境となりつつある wifiがあれば移住して仕事ができる <p>◎コロナ禍による生活・ビジネス環境の大変化</p> <p>●四六時中、356日止まらない生活からの転換</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナがあって出来たこと。時間が出来た。家族といる時間が出来た。コミュニケーションも増えた。四六時中、356日止まらない生活をやめる方向に動いていく <p>●地方（松本）に住み、リモートワークする環境ができた</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然の多い松本でリラックスできる環境に身を置き、右脳を鍛えて創造性を高めていくような働き方ができるようになった <p>◎経済活動の基盤となる松本の特徴</p> <p>●松本の人たちには誇り、気高さがあり、発信力がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民は、松本人であることに誇りを持っている。伸ばすべきポイント。山雅を応援するのもこの松本人気質があるから。 ここに住んでいる人の誇り高さ、気高さがあるのに惹かれて、松本に来る人がいる 伝統・文化がまちに深く根付いている 松本は城下町であり、特に物質的な資源があるわけではないが、発信力はある。松本城が残ったのも市民が良さを発信してお金を集めたからである <p>●進取気鋭・新しいことに挑戦しやすい環境がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 商売の先輩方が好きなことをしていいという雰囲気があるため、若手が育ってきている（すべての地域ではないが） <p>●信州に魅力を感じる移住者たちが新たな魅力を創出した歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> クラフトフェアを立ち上げ時に松本の人には誰もおらず、信州に魅力を感じた人たちが始めたが、それでも徐々に認知されるようになっていった 	<p>◎ビジネススキームの転換の必要性</p> <p>●今まで多くの輸入物に依存していた（低い自給率）</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でサプライチェーンが滞り、海外に頼っていたものが打撃を受けた 松本市には豊富な資源があるにもかかわらず、輸入物に頼っていた部分が多くあったので、持続可能なまちにしていくためにも、地産地消を促進していくべき <p>◎デジタル化の急進</p> <p>●電子決済が世界の潮流。必要であるが手数料が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子決済は世界の潮流であり、対応していく必要がある。必要であるが、手数料は3%程度であり、利幅が薄くなるのが課題 <p>●電気自動車の普及への対応と新たな活用策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気自動車の普及が加速度的に進むと考えられる。今、長距離走るときに手を出せない。しかし、世界の潮流としては電気自動車となる。その状況に耐えられる体制をつくれるか 電気自動車のバッテリーに蓄えられた電力を活用し、送電の役割を担うかもしれない <p>◎経済活動の基盤となる松本の特徴</p> <p>●新しいビジネスを起こしづらさがある</p> <ul style="list-style-type: none"> 郊外部の一部地区では、新しいことをやろうとしても年長者に話しておかないと、トラブルになるケースがある。話しても進められないことがある。 しきたりやルールがあり、地元の町会や地域のキーパーソンへの根回しが必要以上に求められるなどやりにくさがある。年長者の人たちがビジネスをしていたときと時間感覚が違う <p>●山間部は高校進学とともに人材が流出</p> <ul style="list-style-type: none"> 山間地は、中学校を卒業し、高校進学に伴い下山し、バラバラになってしまう。子どもの人数が減り、どのように学校を継続していくかが問題。山間部の学校を町場の学校を同一の扱いにするのは違うと考える 学校がなくなると人が消えてしまい、町として成り立たなくなってしまう 	<p>重要キーワード</p> <p>【経済環境の変化、経済の基盤となる松本市の社会・文化環境】クリエイティブ産業の創出とそれを支える人材の育成と確保。これらを実現するために、環境の変化をポジティブに捉え、松本の強みを活かし、持続可能な地域経済を実現</p> <p>●地方でも仕事がしやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> Wifi環境の整備 <p>●クリエイティブシティとしての松本の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい発想、クリエイティブシティを育成できるまち 松本に魅力を感じ移住してきた人たちが活躍できるまち 新しいことを生み出せる人を育てる <p>●新しいことを生み出せる人たちを育てる。新しい発想が生まれる教育の場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> できあがりイメージがあり、それをつくるだけになっている。生みだしていくことができる人たちを育てないといけない。 新しい発想が生まれる教育の場づくりを進めていくべき。10年後にその才能が活かされればまちは変わっていく <p>●地域の特色をいかした教育カリキュラムを組み込み、子どもが集まる場とすべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の状況・環境にあった独自のカリキュラムにより、その特色ある学校に子どもが集まるようにしたい

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
経済振興に対する考え方・方針	<ul style="list-style-type: none"> ●松本はほどほど都会、ほどほど田舎 何かに突出した特化型ではなく、住民が幸せを感じられることが重要 ・松本は、ほどほど都会、ほどほど田舎で、文化薫る商都である。これからの未来に向けて一歩足が出にくい地域性がある。 ・デジタル化、環境など何を一番に守るのがでにくい。ほどほどにいろいろあるから。住民が幸せに感じているなら、突出した産業でなくてもいいのではないか。 ●安心と安全、平和がベースにある ・安心と安全のある街でありたい。 ・地域はもちろん、日本国内がいとわず、平和を大切にしていきたい。いろいろ考え直さなければいけない世の中になっているので、一人ひとりが考え、何に対してYes、何に対してNoと言うかはっきりさせるべき。安心、安全をベースに教育の内容も考えていくべき。 		
農林業	<ul style="list-style-type: none"> ●長野県の伝統野菜は77種類あり、（基準は異なるものの）京野菜や江戸野菜、以上に豊富にある 	<ul style="list-style-type: none"> ●いい野菜があるが、うまくブランディングできていない ・鎌倉野菜はブランドづくりがうまいが、松本はうまくない。 ・いいものを安く売りすぎている。そこからの脱却が必要。 ・農産品のブランド化を進めるべき。 ●農業従事者の人材の不足が予想される ・農業数の減少が予想されている。需要量に対して供給量が減少してしまうことへの懸念。 ●森林資源（木材）が活用できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業のIT化の積極的推進 ・オランダの農産物輸出額は世界で2位を占めており、その理由はAIやITで生産性を上げているためである。波田でも、例えば放置されているスイカをITで管理することによって、生産性を高められる。 ・現在ある遊休地をAIやITの導入によって活用していく。 ●農産物の高付加価値化 ・農産品の6次化によって付加価値を生み出す。 ・今後は大量生産の時代ではない。既存の価値に加え、プラスαの価値を生み出していく
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギー等を生み出す資源が豊富 ・松本の環境を活かし、再生エネルギーへの取り組みを伸ばし、エネルギーの地産地消を進めていける ・具体的に、浅間温泉の廃熱を使ったイチゴ栽培や、山岳都市を活かした地熱発電への取り組み。 ・梓川ダムの有効活用。 ・日照率が高いことを生かした太陽光発電。家庭でのソーラーパネル。 ・クリーンエネルギー分野では日本一を目指せる 	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギーを生み出せる資源はあるが、活用できていない ●再生可能エネルギーを生み出す場所が課題 ・再生可能エネルギーを生むには莫大な土地が必要になり、どこかの地域が犠牲になってしまう。 ●低炭素、再生可能エネルギーを促進する支援制度がない ・低炭素、再生可能エネルギーのための制度資金がない ●エネルギーの取組方針を打ち出す必要がある ・脱炭素社会に至るまでの家庭、技術、役割を考える必要がある ・世界に向けて発信していくのであれば、方針が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギーの自給自足に向けた資源活用 1) 方針を明確にする 2) 課題を検討した上での議論が必要 ・自然の豊かさを利用し、地産地消を進めていくべきとの意見が出ているが、一方で、どこで再生可能エネルギーを創り出すかは今後の課題として出ている。 ・その中でも、まずは市役所が率先してエネルギーの自給自足モデルを構築してはどうかという意見もある。
商業環境	<ul style="list-style-type: none"> ●強い経済圏を構築している ●競争が激化する中、市街地の個店は一定程度維持されている ・松本の商店街は強い。郊外における、ナショナルチェーン、市街地におけるショッピングモールの建設など、厳しい競争にさらされたが何とかこなしている。 ●リピーターやファンに支えられた個店が多い ●お店の新陳代謝が早い ・町中に新しいお店が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ対策でテイクアウトを開始とともに、環境に悪影響 ・テイクアウトを始めたが、ゴミの問題が発生 ・パッケージの在庫も抱えるようになってしまった 	

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
観光・イベント	<p>●松本のインバウンド需要は高い。 外国人旅行者の誘客には更なるポテンシャルがある</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本のインバウンドはこれからである。大体3回目くらいの来日で地方に行くとき、インバウンド旅行客は今後、松本にも来ると予想されている 英語圏のベストセラー旅行雑誌『ロンリープラネット』では、長野県・富山県・石川県を中心とした日本アルプスエリアに多くのページ（85ページ）を割いており、京都（60ページ）より多い インバウンドは広域連携が重要であり、近隣との連携が必要である。 長期滞在するインバウンドの旅行客は一か所に滞在するのではなく、何か所かで滞在する傾向にある。デジタルマーケティングや発信力を高め、松本に長期滞在する仕組みを考えていく必要がある。 いずれ、世界の富裕層がセカンドハウスを松本に持ってもらえるなどできるとよい。 上高地、乗鞍に外国人が泊まる施策があるといい。 <p>●クラフトフェアなど派生ビジネスを生み出せる資源がある</p> <ul style="list-style-type: none"> クラフトフェアも長くやっているので派生するコンテンツはつくることはできる。今、作家の作品は何十人分がHPに掲載できる。そこに有料コンテンツをつくる等はできる。 <p>●信州まつもと空港がある</p>	<p>●コロナ禍でのイベントが中止となり飲食店等が打撃を受けている。 またクラフト作家等の発表の場もない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本はイベントが多く、そこには県外から多数、訪れる。コロナ禍でイベントが出来ないため、飲食店等が大きな打撃を受けている。クラフト作家等も発表の場がない。先が見えないから対策が取りづらいが、非接触型で、従来のイベントとは違うやり方をしていく必要がある。 <p>●コロナ禍における観光地の3密回避の取組みが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本城の3密回避に向けて、デジタルを活用したパスをつくるなどし、予約時間までの待ち時間に散策してもらい、分散化・周遊を進める <p>●持続可能な観光都市に向けては市民の納得感が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な観光とする必要がある。観光を通じて、市民が幸福やよりよい生活を感じられるなど、市民の生活の質の向上が観光の大きなテーマである。持続可能な観光都市は市民が納得して初めて成立する。市民の観光に対するアンケートをとってもよいのではないか。 また、観光産業が生み出した税金で、空き家対策ができればよい。観光客が来るから地域が潤うことを感じてもらえ、地域の納得感が得られるのではないか。 <p>●市民がもっと地域の良さを知る機会が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> おもてなしとは、ホテルマンのスキルを身に着けることではなく、自らが良いと感じているあるいは享受していることを自慢できるぐらいにあふれ出す気持ちがあるかどうかである。もっと市民が地域の良さを見直す機会を作れるとよい。 <p>●山間部の観光地への公共交通でのアクセスのしづらさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本には人の手が入っていない自然が上高地以外にも多くあり、例えば乗鞍や美ヶ原がある。しかし、19時になると乗鞍には駅から公共交通で行けないので、観光に力を入れるならアクセスも考える必要がある。 <p>●松本市のブランディングがうまくできていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本市の観光に対するブランディングがうまくできていない。いいものを安く売りすぎている。他の人が価値を認めているものを高く売る。安売りする松本からの脱却が必要である 	<p>重要キーワード</p> <p>【観光・イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な観光地としての松本 観光産業が地域を支える松本 <p>●インバウンドの誘客強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本での長期滞在化に向けた取組み 広域と連携によるインバウンド推進 富裕層がセカンドハウスを松本に持つ仕組みづくり <p>●観光業へのITの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル化による分散化・集中化 デジタルコンテンツづくり デジタルマーケティングの強化 Wifi登録等を通して来訪者の属性を把握し、マーケティングに活用するなどの取組みなど <p>●持続可能な観光都市に向けた市民の観光に対する理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光振興より上がった税金を空き家などまちづくりに活用 市民の観光に対する意識の把握 市民が地域資源の良さを見直すきっかけづくり <p>●選ばれる地域に向けた魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光地としてのブランディングの実践 空き家、空き店舗を活用したアーティストインレジデンス。作家の拠点にする。芸術家とサポートする経営者、大家等をコーディネートする 全長日本一の自転車/電動キックボード専用ロード 全長日本一のジップライン 観光客が寄りたくなるデザイン性優れる完全ゼロエミッションCity Hall（市役所）の建設 <p>●信州まつもと空港の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸・札幌・福岡空港との国際線連携の強化 貨物便輸送の可能性を探る <p>●広域観光連携：</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本・高山・金沢ルート強化 滞在型自転車観光の推進、自転車産業の集積
館・町会 価値基盤としてのコミュニティ 公民	<p>●公民館・町会活動が盛ん。稼ぐ場にもなりうる</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本は公民館活動が盛んである。公民館は気を張らずにいける。入り口としての受け皿としての公民館がある。 町会のつながりは変わらない。 新しい発想として公民館で稼ぐことを考えてもよいのではないか。ないものを考えても仕方ない。あるものをどうするかを考えることが重要である。 <p>●公民館が様々な役割を担う。発生するかもしれないメリットに着目することが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館がいろいろ役割を持つのがいい。美術館になってもいい。入りたくなるような町内会なるといい。そこに経済活動があってもいい。 スポンサーを募るなども考えられる。 	<p>●地域の人々のつながりが減っている</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会が昔に比べると希薄化している。 コミュニティの連帯感が薄くなってきている 地域における子どもたちの減少、更に活動への参加率も減少 <p>●ネット上のつながりの活発化によるコミュニティの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットでつながっており、コミュニティが必要とされていない <p>●公共施設での自由な商売が難しく、経済活動の障壁になっている</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術館で作品展示しても、売れない。入場料も取れない。コンサートは入場料とってもいいのに。 	<p>重要キーワード</p> <p>【価値基盤としてのコミュニティ 公民館・町会】 松本の強みである町会・公民館活動を活かし、（経済だけでなく）あたらな価値創出の場とする</p> <p>●町会・公民館活動の役割の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会・公民館活動の維持に向けた役割の整理 担い手の確保 <p>●公民館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい発想による有効活用

3. 教育厚生

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
<p>幼少期の教育・保育</p> <p>小中学校教育</p>	<p>●保育園の保育士人数の手厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> すでに厚労省の基準よりも松本市の保育士配置基準は高い 	<p>●子育て家庭の孤立化</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て中の親が孤立してしまう状況が発生している。 子育ての先輩から助言を受けやすいなど、有機的な関係が希薄になっている <p>●子ども同士、地域での子育てが失われつつある</p> <ul style="list-style-type: none"> 元々、集団で子育てが行われていた。少し年上の子どもがいてそれをみて子どもが育っていた。その社会が崩れている。本来であれば地域社会全体で子育てをすべき。現状、地域の子育て環境は自助、共助が中心。自助、共助で補えないときに、公助になる。協働養育的な考え方を導入していくべき <p>●保育現場における大人の立ち振る舞いが子どもに与える影響を考慮すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障がい等で、保育現場が受け入れられない場合がある。親から加配をつけてほしいとの声がある。そうすると大人がその子どもに関わる姿を見て、子どもたちが「あの子は違う」と思ってしまう。尊重しあいながら共に学ぶ教育が必要 <p>●保育士の就労環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士不足は長年の課題 保育士のなり手不足問題は、原因の特定からしっかり取り組む必要がある。 保育現場の管理職の質向上、働き方（長時間労働、低賃金、出勤時間など）等の課題を整理し、取り組む必要がある <p>●外国由来の住民が妊娠・出産・子育てにおいて孤立しやすい状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国由来の住民が妊娠・出産・子育てで苦労している。孤立しやすい状況に社会がある。 <p>●非認知的能力、生きる力を高める教育が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力は必要であるが、学力ではない教育、生きていく力が必要 インプット重視型の教育ではなく、非認知能力を育む教育が必要。非認知能力は3歳～6歳頃伸びると言われており、幼少期から受け身姿勢の改善が必要。家庭教育も重要になる <p>●幼少期における教育環境、保護者のケア環境の整備が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育は早い時期ほど大事であるが、保育の環境が見過ごされがちである。ひとりひとりに合わせた保育、教育が大事であるが、公立の施設では今でも管理する側の都合で現場が動いている。また同じ理由から母親のケアが必要。そういうところに公的な支援が行き届いてない <p>●家庭に対するアタッチメントの必要性の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 思春期ケアには自己肯定感を高める必要がある。幼少期にしっかりアタッチメントが築けていると自己肯定感が高くなる。幼少期のアタッチメントをしっかり築いていくことが重要であり、家庭にそのことを知ってもらう必要がある <p>●「主体性」を高める保育・初等教育の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の保育教育では「doing」（～をこなさい）が多い。フィンランドは「being」（「あるべき」を自分で考える）タイプの保育教育が主流。そのため、子どもの主体性が育まれている 小学校教育の場においても、子どもたちが主役で担任が少し引いて、子どもたち同士で課題解決を進めるスタイルであるべき。 大人も主体性がなく「言われたことはやる」という受け身の人が多い。受け身になる背景は、子どもの頃から受け身の姿勢が影響している 受験中心の教育では、受け身になる。受け身姿勢の教育を続けている限り、起業家などは生まれてこない 	<p>重要キーワード</p> <p>【幼少期の教育・保育 小中学校教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域ぐるみの子育て・教育の強化 非認知的能力の向上、自己肯定感の醸成に向けた教育機会の創出 子どもの個性を伸ばし、多様性を受け入れる環境の創出 <p>●協働養育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助・共助・公助の一体的な（協働による）子育ての実施 <p>●家庭教育に対する啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> アタッチメントや非認知的能力の育成に関する家庭への啓発 <p>●保育士のさらなる配置、労働環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士のさらなる配置 保育士の職場環境の改善に向けた調査・研究、検討 <p>●子どもたちの個性・主体性、寛容性・多様性への受容力を伸ばす教育の実施及びそのための教員の負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼少期からのインクルーシブ教育 小中学校における子どもたちの主体性を育む教育の実施 小学校での一人担任制から複数担任制への変更の検討 教員1人あたりが受け持つ児童数の見直し 1クラス定員を半分にする 障がい児も含め、多様なこどもたちが助け合い、学び、関わりあう濃度を高める教育を目指す <p>●松本の特性を生かした教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本だからできる教育のひとつが豊かな自然環境を最大限に生かした教育である。 知識偏重でないカリキュラムの作成。創造性豊かな生きる力も強いこどもたちが育つカリキュラムの作成

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
キャリア教育・学び直し	<p>●松本で育つ中で気づいた地域の魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> 探求的な学習。基本的な学びをしつつ、探求的な学習などがあるといい。それによって地域の魅力に気づく。 	<p>●多様な進学先、職業の選択肢を知る（キャリア教育）を充実すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちには多くの職業を知り、選択肢が多い状態で進学してほしい。 地域や企業等についてもっと学ぶ機会があれば、松本に残る学生も増えるのではないか。 <p>●年代に関わらずレベルアップ・チャレンジできる環境をつくるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本市の地域全体でもレベルアップが必要。稼ぐ力、生きる力を全体的に上げていく方向性を出していく必要がある 松本出身者で域外に進学した者は「戻ってきたい」という声がない。自分を高めていく上で「松本では成長出来ない、挑戦できない。外の方が自分の実力で戦える」との声がある。しかし、それは松本でもできるが、それに気がついていないだけと感じている。 <p>●稼げない大人が増加。職業訓練では限界があり困窮からの脱出が難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> 雇われ得る力がない人、稼げない大人が増えている。「言われたことはやる」受け身の大人が多い。 職業訓練は限界がある コミュニケーションがとれない人が従事できる仕事が少なく、自立できないケースが多い 	<p>重要キーワード</p> <p>【キャリア教育・学び直し】 人生の選択肢を増やすキャリア教育の充実 成長し、学び続ける人を応援する仕組みづくり</p> <p>●定住化Uターン促進に向けたキャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な職業や大人の姿をみる機会を増やし、進学先や職業の選択肢の幅を広げる <p>●いつまでに学び続けられる教育機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 稼ぐ力、生きる力をレベルアップし続けられる教育機会の創出 <p>●起業や個性的な商店づくりに向けたつながり、学ぶ場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 起業家や経営者のネットワークづくりの支援 サザンガクなどコワーキングスペースの活用 マーケティング、プロモーション等を学べる場づくり <p>●商都松本としての「商い教育」の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 起業家や経営者が学び、励ましあうリアルな場の設定 商い教育の実施 小さな商いで生きていける力を身に着ける 商業観光分野における「担い手」育成
生活困窮		<p>●親の貧困が子どもに連鎖。連鎖を断ち切る支援が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> お金がないとあきらめなければならないことがいっぱいある。親の貧困が連鎖し、小中学生の段階で貧困に直面している。子どもの貧困は子どもたちの責任ではない。子どもの貧困から脱出し、立ち上げられる支援が必要である。 <p>●困窮者等の最後のセーフティネット</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣切りなどが生じている中とりあえず雨風を防げる保障は必要。生活困窮者を受けられるシェルターが必要 市内では最後のセーフティネットがNPOが運営している。しかし、最後のセーフティネットをNPOに頼っていていいのか？ セーフティネットとしての受け入れ先、シェルターは不足状況にある。 <p>●ベーシックインカムの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ちゃんと働けない人に対して、少額の雇用は創出できる。しかしそれでは生活できないため補完するベーシックインカムなどの施策の検討も必要では 	<p>重要キーワード</p> <p>【生活貧困】 貧困を再生産させない仕組みづくり セーフティネットの安定化</p> <p>●子どもが貧困から脱出し、立ち上げられる支援の充実</p> <p>●人生前半（若年世代）の社会保障のあり方検討</p> <p>●給与水準を上げることが難しい者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ベーシックインカムの導入 コミュニケーションがとれない人が従事できる仕事の支援 <p>●困窮者等の最後のセーフティネットのあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後のセーフティネットを公が担うべきか

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
障がい福祉		<p>●ソーシャルインクルージョンの実現を</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者を含め、困難を抱えている人々が孤立することなく社会の構成員になれることが重要。弱者を排除する社会は弱くてもろい。 <p>●人に制度を合わせるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で暮らす、生活する上でどのような支援が必要かという視点で対応していくべき。人に制度を合わせていく仕組みづくり。 <p>●包括的な支援に対応できるジェネラリストを育成していくことが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> 人を支えていくときに100の専門家が必要なら、それでは立ちゆかない。多機能化していく必要がある。スペシャリストからジェネラリストへの転換が求められる。地域包括ケアシステムの確立が必要 <p>●家庭や地域で暮らせない場合のセーフティネットが弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域で暮らせないケースが発生した場合のセーフティネットが弱い。グループホームが少ない。 保証人がいない人は施設入所できないうえに入院もできない。アパートの契約においても保証人がいない人が入居を拒まれる等の課題が顕在化している。コロナ禍での施設への短期入所（ショートステイ）も制約が多い。 医療的なケアに対応できる資源も不足している。また、施設入所、利用する際に特定の疾患、感染症があることにより拒否されるケースが多々ある。これは感染症の正しい知識が無いための「言われなき偏見であり、差別」である。 グループホームの保証人の問題に関しては、生活困窮者に関する仕組みができて、県社協が受けることができるようになったが、不十分。 <p>●障がい児への家庭への支援が必要（特にひとり親家庭や母親）</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいを持って生まれきた瞬間、何らかの支援が必要とされる。特にひとり親家庭や母親の負担が大きく、何らかの支援が必要。 <p>●発達障がい児への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 母親が障がい児と言われるのがいやなので普通学級に入れたがる。このような発達障がいにおけるグレーゾーンの子どもたちへの支援が十分ではない <p>●成年後見制度に対し、正確な理解が浸透していない</p> <ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度の利用に課題があり、「成年後見制度利用の促進に関する法律」が平成28年4月に公布された。松本市においても成年後見制度利用促進計画、中核機関の設置、協議会の設置などの検討をしっかりと進める必要がある。 <p>●合理的配慮に対する啓発の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ノーマライゼーション、権利条約の観点からはこの社会的障壁があるために、平等が阻害され、障がい者が社会から排除されているとしたら、「障がいは社会の方にある」とも言える。総合計画において合理的配慮について触れる必要がある。 	<p>重要キーワード</p> <p>【障がい福祉】 誰も取り残されない共生社会、インクルーシブな社会、多様性のあるまちの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> より包括的な支援体制の構築 在宅生活の継続に向けた制度設計 障がい児の家庭や発達障がいの「グレーゾーン」のへ支援強化 <p>●誰も排除されない平等な社会の実現へ</p> <p>●希望すれば誰もが地域で暮らし続けられる地域包括ケア体制の構築</p> <p>●インクルーシブ教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害のある児童がその潜在能力を最大限に発達させ、自由な社会に効果的に参加できるようにするという教育理念のもと、障害のある児童と障害のない児童とが可能な限り一緒に教育を受けられるよう配慮。 分ける社会、分ける教育からインクルーシブ社会 <p>●地域生活の促進、インクルーシブな社会、共生社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の合理的配慮の浸透 施設入所や賃貸住宅の契約における保証人 成年後見制度の利用促進 障がいへの正しい理解、差別偏見の除去、資源開発が不可欠である 以下は、地域福祉計画、障がい者計画に数値目標と併せて記載されるべき事項である。 <ul style="list-style-type: none"> グループホームの設置 短期入所（ショートステイ）の確保 在宅サービスの確保 生活困窮・DV・虐待保護の緊急受け入れ、（シェルター）先の確保 <p>●障がい児への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい児の家庭支援（特にひとり親家庭） 発達障害などグレーゾーンの支援強化 <ul style="list-style-type: none"> グレーゾーンの子どもたちへの支援。信大付属で多様な子どもたちが学べる学校の実験。多様性のある街。

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
公民館・町会・コミュニティ	<p>●松本市の公民館活動は歴史的にも盛ん。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉ひろばや公民館が地域の核になっている。 <p>●公民館が地域の交流、防災や子育ての拠点となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会の行事は公民館に集まって実施しており、住民のたまり場として機能 最近では、防災や子育ての拠点としても機能している。 	<p>●町会加入率の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会に入っていない人が増加。町会費で活動する必要がある中、町会の人数が少ないと公民館活動もできない。 学生は公民館での活動に声かけできるが、町会には参加していない。そもそも住所を松本市に移していない。また、町会活動や会合を昼間やるため、若い人は参加できない。 <p>●若者への松本に関する情報提供が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> どこにアクセスすれば松本の情報が見られるのかという声が学生から多く聞かれる。パンフレットとか情報が分散している。 <p>●学生と地域に壁がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生は大学内で生活が完結している。大学は大学、地域は地域と見えない壁がある。 学生は松本のことを知りがたがっている。 大人が考えている認識と学生との間にギャップがある 大学生は、住民票を移さないし、町会にも入らない。 <p>●県内の自殺率が高いことは、多様性を受入れていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 長野県は若年層の自殺率が高い。大いに問題。多様である人が受け入れられていない状況を表しているのではないか。ゲートキーパーが必要である。徳島のあるまちは日本で一番自殺率が低い。そのまちは多様性を受け入れているとの研究もある。 	<p>重要キーワード</p> <p>【公民館・町会・コミュニティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動の促進に向けた町会、公民館の役割整理・機能強化 地域活動の担い手確保 <p>●町会の維持に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 町会の加入率を上昇の取り組み 町会の担い手の確保 取り組みの情報発信（特に若い世代） <p>●公民館の強みを活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てを支える場 防災拠点 <p>●学生と地域とをつなぐ仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学と地域をうまくつなげられるような環境を整えられると良い。
多文化共生	<p>●外国由来の子どもたちへの学習支援が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政と連携し、中信多文化共生ネットワークでは進学に向けた学校外での教科教育も行っている。 高校進学サポート、教科サポートは松本は進んでいるが、更なるサポートが必要である。 <p>●国内の人口減少が進む中での外国由来の方を対象とした移住施策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本には約4000人の外国籍住民がおり、県内最多である。政策的な視点として、よき地域住民として、外国人を松本に呼ぶという視点もあってもよい <p>●身近に異文化教育ができる環境がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近で暮らす外国人の方を呼んで異文化教育ができる。料理などは異文化を知る良いきっかけとなる。 	<p>●子どもの学習言語の習得機会が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人はサバイバルで生活言語を3年程度で学んでいくが、子どもは違う。学習言語は習得までに5年から7年かかる。子どもが学習言語としての日本語を習得する機会が不足している <p>●多様性を受け入れるまち、共生社会の実現していく必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> 共生社会の対局は排除。排除の次は棲み分けである。松本は棲み分けの状態といえる。今後はやはり共生していくことが必要である。そのためにはマジョリティ側（日本人）がマイノリティに歩み寄る必要がある。 	<p>重要キーワード</p> <p>【多文化共生】</p> <p>多様性を受け入れる共生社会の実現</p> <p>●外国由来の方々への学習の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国由来の子どもたちの学習言語としての日本語教育の充実 外国由来の子どもたちの高校進学支援（教科サポート等） 高校進学が大きな分岐点である。進学に向けたサポートの強化が必要。 <p>●やさしい日本語の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> やさしい日本語は、防災や行政における情報発信で使われている。しかし、まだ活用されていない。＜やさしい日本語の例＞避難してください→逃げてください。 医療など消して間違えていけない分野では多言語化も必要である

4. 3部会の取りまとめ

都市計画

学び・教育・人材育成

【教育／市民の気質】
松本の**将来を担う子どもを育て、大人もアップデート**できるまち

- ・「**教育**」を都市戦略の中に位置づける
- ・常に**学び続けられる。年代に関わらず、学び、挑戦でき、多様な人々が活躍**できる

【その他松本の特徴】
松本の文化を活かし、育むクリエイティブ産業の創出

自治会・公民館・町コミュニティ

【自治・町会・コミュニティ／防災・減災】
力強く残っている松本のコミュニティ力の、これからの時代に合わせた**再生・強化**

自然環境・社会基盤・観光

【自然環境】
市民が自然の恵み・恩恵に敬意を表するとともに、まちづくりに活用していく

- ・松本の強みである自然に対する敬意と保全
- ・森林資源のまちづくりへの活用
- ・自然資源の循環を踏まえた都市計画

【都市環境】
松本の文化・歴史の積層を活かしたまちの再生

【交通インフラ】
車社会からの転換
(徒歩や自転車でもちを感じる暮らしへの転換)

- ・中心市街地を歩行者、自転車で生活できるまちに
- ・公共交通網のあり方の検討（特に郊外部）

生活困窮・障がい福祉・多文化

経済振興

【経済環境の変化、経済の基盤となる松本市の社会・文化環境】
クリエイティブ産業の創出とそれを支える人材の育成と確保。これらを実現するために、環境の変化をポジティブに捉え、松本の強みを活かし、持続可能な地域経済を実現

【価値基盤としてのコミュニティ 公民館・町会】
松本の強みである町会・公民館活動を活かし、（経済だけでなく）**あらたな価値創出の場**とする

【観光・イベント】

- ・ **持続可能な観光地**としての松本
- ・ **観光産業が地域を支える松本**

教育厚生

【キャリア教育・学び直し】

- ・ **人生の選択肢を増やすキャリア教育の充実**
- ・ **成長し、学び続ける人を応援する仕組みづくり**

【幼少期の教育・保育 小中学校教育】

- ・ 家庭や地域ぐるみの子育て・教育の強化
- ・ **非認知的能力の向上、自己肯定感の醸成に向けた教育機会の創出**
- ・ **子どもの個性を伸ばし、多様性を受け入れる環境の創出**

【公民館・町会・コミュニティ】

- ・ 地域活動の促進に向けた町会や公民館の**役割整理・機能強化**
- ・ 地域活動の担い手確保

【多文化共生】
多様性を受け入れる共生社会の実現

【生活貧困】

- ・ **貧困を再生産させない仕組みづくり**
- ・ **セーフティネットの安定化**

【障がい福祉】
誰も取り残されない共生社会、インクルーシブな社会、多様性のあるまちの実現

- ・ より包括的な支援体制の構築
- ・ 在宅生活の継続に向けた制度設計
- ・ 障がい児の家庭や発達障がいの「グレーゾーン」のへ支援強化

5. 共通するキーワードの抽出

コミュニティの再生・強化	価値基盤としてコミュニティ見直し	文化・歴史の積層を活かす	自然の保全と活用
学び続ける人を支える	挑戦を応援	稼ぐ力を高める	主体性、生きる力の育成
共生	多様性への寛容さ	持続可能性	自然への敬意
クリエイティビティ	貧困からの脱出	自然の都市の融合	新と旧の融合
人口減少	少子化高齢化	量から質への転換	循環
デジタル化など新しい技術への対応	これまでの延長戦上ではない		

